

通し番号	5013
------	------

分類番号	R01-9C-32-05
------	--------------

東京湾のタチウオの産卵量の指標と翌年の漁獲量の関係	
[要約] シャコやマコガレイに代わり、東京湾の小型機船底曳網漁の主要対象種となったタチウオの産卵量の指標となるネット採集調査における卵の採集量と、翌年の横浜市漁協柴支所の小型底曳網によるタチウオの漁獲量の増減は良く一致した。このことは、産卵量確保のための取り組みが本種の資源管理に向けた最も有効な手段であることを示唆する。	
神奈川県水産技術センター・ 栽培推進部	連絡先046-882-2314

[背景・ねらい]

2000年代に起きた東京湾漁業の主要対象種の交代は、それまでシャコに大きく依存してきた小型底曳網(以下「小底」)の漁業者にとって大きな痛手となった。変わって漁獲対象となったタチウオは、遊漁や巻き網が相当量を獲っているとみられる中、小底によるコンスタントな漁獲が続いているが、その依存度が高まることは、資源の衰退が死活問題につながる。本種の資源管理については行政ニーズも高く、水産技術センターでは、シャコやマアナゴの調査に代わり、本種の資源生態についての調査研究を重点的に強化してきた。

[成果の内容・特徴]

1 シャコのアリマ幼生、カタクチイワシ卵と共に、東京湾内のタチウオ卵の出現状況を調査するための江の島丸およびほうじょうによる漁場環境調査を通じて得られる、ある年の調査1回あたりのタチウオ卵の採集数と、横浜市漁協柴支所の小底による翌年のタチウオの漁獲量の増減は、ここ4年間によく一致しており、産卵量が多ければ翌年の漁獲量が多くなるという関係が複数年続いて観察された。

2 このことは、湾口部を中心に産卵が行われ、300gを超えて漁獲加入し、2kgを超えるまでに成長する本種の生活史が湾内で完結していること。産卵後の急速な成長を支える良好な餌料環境が確保されていること。産卵量に応じて増減する資源に対する小底の漁獲圧の年変動は小さく、コンスタントであることなどを示しているものと思われる。

3 これらのことから、現時点で考えられる東京湾の本種の資源管理にあたっては、産卵量を確保することが最も有効であると考えられた。

[成果の活用面・留意点]

1 産卵量の確保が有効であることは、漁業者協議会総会や勉強会を通じて小底の漁業者にはすでに伝えた。漁業者が取り組みやすい方法からスタートすることが望ましく、そのことが遊漁や巻き網にも波及し、何らかの取り組みを促すことにつながると考える。例えば産卵が集中する月月例周期に注目した数日間の禁漁は、先進県である大分県の漁業者が豊後水道で実施している。

2 この産卵量と翌年の漁獲量の関係は、おそらくは餌料環境の悪化によって崩壊する恐れがある。この関係を注視し続けるとともに、餌料環境の悪化をいち早くとらえるためには、シャコの浮遊幼生及びタチウオ卵のネット採集調査を継続し、同時に採集されるタチウオの餌として重要なカタクチイワシの卵量等をモニタリングすることが有効である。

[具体的データ]



図 タチウオ卵採集調査における採集数と翌年の漁獲量の関係

[資料名] 令和元年度水産海洋学会研究発表大会講演要旨集

[研究課題名] 複合的資源管理型漁業推進対策事業（東京湾のタチウオ資源調査）

[研究期間] 平成30～令和4年

[研究者担当名] 岡部 久